



令和7年(2025年)1月27日 公表
 令和6年版 山口県日本海側重要魚種の資源評価

マサバ(対馬暖流系群)

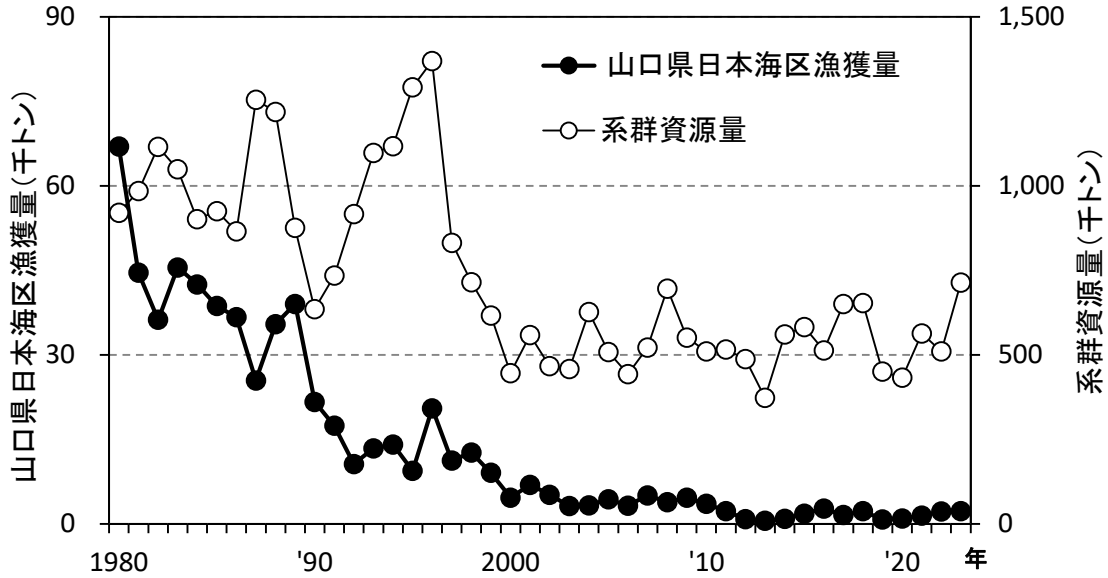


図 山口日本海区さば類漁獲量(漁業・養殖業生産統計年報、マサバ主体、ゴマサバ含む)及び対馬暖流系群マサバ資源量((国研)水産研究・教育機構資源評価報告書)の推移

【漁業】さば類は主にまき網で漁獲される。近年、初夏と秋にサバ子(尾叉長 30cm以下)が主に漁獲されている。

【漁獲量】山口県日本海区のさば類(ゴマサバを含む)漁獲量は、1980年には67,000トンであったが、その後は著しく減少し、1999年以降は1万トンを下回った。2013年には過去最低の586トンまで低下したが、その後は800~2,700トンとやや増加し、2023年には2,289トンであった。

【資源状態】資源量は1973~1996年には、概ね100万トン前後で安定的に推移したが、2000年以降は50万トン前後に留まった。2021年以降やや回復し、2023年は71.4万トンであった。

2023年の親魚量(SB)は最大持続生産量(MSY)を実現する親魚量(SB_{msy}:目標管理基準値)を下回った。また、2023年の漁獲圧(F)はMSYを実現する漁獲圧(F_{msy})を下回った。親魚量の動向は増加と判断された。

2023年漁獲量(万トン)	MSY(万トン)	2023年親魚量(万トン)	目標管理基準値(万トン)	限界管理基準値(万トン)	禁漁水準(万トン)
27.9	26.7	22.2	33.0	11.7	1.3

*暫定値